

### ○ 食育活動に参画、小学生に枝肉の解体作業を披露—TOKYO X Association

TOKYO X-Association (植村光一郎会長) は8日、立川・昭島市の国営昭和記念講演で多摩地区の小学生らに TOKYO X の枝肉の解体作業を実演、枝肉から精肉になるまでの行程を説明した=写真。これは多摩地域の大学・行政・企業・団体などで構成する(財)学術・文化・産業値ネットワークが主催する体験型環境教育プロジェクト「それいけ!たまレンジャー!!」の一環として実施されたもの。Xや地場の食材を使ったメニューを通して、多摩地域の自然の現状や食に対する理解を育むことを目的としている。



TOKYO X-Association は「HATTORI 食育クラブ」への加盟や、「東京都食育フェア食育大運動会」(昨年11月)に参画するなど、食育活動に積極的に取り組んでいる。子どもたちがXを身近に感じることで、両親や将来自分たちの子どもへと世代間を越えたXのファンが広まっていく。植村会長は「物事の成立ちや食への感謝、良い食を見極める力を付ける」といった食育活動の理念と、アニマルウェルフェアやおいしさのこだわりなどXの持つ理念は共通している。子どもたちに本物の味を知ってもらいたい」と、食育活動に参画する理由をうち明ける。当日は、多摩地域の小学3～4年生70人が参加。はじめに植村会長がスライドを使って、Xの特徴や豚肉になるまでの課程などを説明。その上で「食べることは命をいただくこと。生きている元気をもらってみんなが勉強や遊ぶことができる。だから全ての食べ物に感謝を持って大切にしてほしい」と語りかけた。解体実演では、枝肉重量80kgの半丸を用意。ナイフを使ってバラ、ロース、モモなどに分割してゆき、初めて見る光景に子どもたちは、骨や脂肪を削ぎ取る音が出るたびに歓声を上げた。中には「バラってどこなの?」「内臓は入っていないの?」「あの紫色の部分(=腎臓)は何?」「取った脂は何に使うの?」といった質問もしていた。スライスした後は、子どもたちが多摩地区で採れた野菜と一緒に焼きそばや焼き肉を調理した。

### ○ 7月の豪州産ラム対日輸出 19.5%減の575 t、累計では6.6%増

MLA豪州食肉家畜生産者事業団が発表した7月の豪州産ラムの対日輸出量(船積みベース)によると、同月の総輸出量は575 tとなり、前年比で19.5%の減少となった。今年に入って増加ペースで推移していたが、6月は13.5%減、7月19.5%減と2ヵ月続けての減少となった。産地価格の値上りが大きく影響してきているものとみられる。

5月まで増加ペースで推移したため1～7月の累計では前年比6.6%増の5,757 tと増加を維持している。品目別の対日輸出量は、チルドが23.0%減の456 t、フローズンが2.5%減の118 tと、これまで大幅増を続けてきたフローズンも前年割れに転じた。

#### 豪州産ラムの対日輸出量の推移(船積みベース)

(単位:t、前年比%)

	08年4月	5月	6月	7月	1～7月累計
合計	1,182 (140.7)	1,096 (103.9)	754 (86.5)	575 (80.5)	5,757 (106.6)
チルド	716 (108.3)	696 (96.5)	501 (76.4)	456 (77.0)	3,722 (89.4)
フローズン	465 (259.8)	400 (120.1)	253 (117.1)	118 (97.5)	2,035 (164.8)